

〈特集〉
外国雑誌の流通
と購入方式

外国雑誌の購入 —アクセスシステムの導入経験—

織田 忍

1. はじめに

本学は昭和53年4月、日本ではじめて鍼と灸を専門とする三年制の短期大学として、京都府船井郡日吉町に誕生した。その後、昭和58年4月に四年制大学に昇格し、今年でちょうど短期大学開学後15年が経過した。

この間に昭和62年8月、114病床、10診療科をもつ附属病院も同じキャンパス内に開院し、平成3年4月には大学院修士課程も増設された。学生数は約500名、教職員数約220名で四年制大学としてはたいへん小さな規模の大学である。

附属図書館は土曜、日曜、祝日、年末年始、お盆の時期、創立記念日などは閉館し、年間およそ230日、朝9時から午後5時30分まで図書館員(専任)2名で開館している。

現在の蔵書は図書約31,000冊、製本雑誌約6,000冊、点字図書約1,400冊、視聴覚資料約470点である。カレントな購読誌は邦文雑誌124タイトル、欧文・外国雑誌は中国雑誌や日本国内で出版されている英文雑誌などを含めて107タイトルである。図書館用、病院所属のスタッフ用、大学の教職員用の図書や雑誌は、すべて図書館を経由して発注、納品、受け入れがなされ、図書館では全体をほぼ把握している。

雑誌の購入は、1993年度を見てみると購読している外国雑誌107タイトルのうち84タイトルを紀伊國屋書店のアクセスシステムによって購入して

いるが、中国雑誌は紀伊國屋書店扱いではないので、それ以外の外国雑誌にはすべてこのアクセスシステムを導入していることになる。

2. アクセスシステム導入の理由

短期大学開学準備の段階から、図書・雑誌の購入は主として紀伊國屋書店にお世話になってきた。したがって、外国雑誌の購入に関しても過去14年間、他の書店の見積もりをとることなく紀伊國屋書店に一括して発注してきた。

1992年1月より、紀伊國屋書店ではアクセスシステムのサービスを開始したが、それに伴い当図書館も自動的にこの方式に移行したというのが導入の経過である。この点で、価格を一点ずつ照合し、より安価な書店に発注したり、複数の書店が雑誌の納入を行っている病院図書室とは明らかに異なった事情がある。本学の図書館が、紀伊國屋書店がアクセスの営業開始した初年度に、このシステムに切り換えたのもこういった事情と無関係ではないと思う。

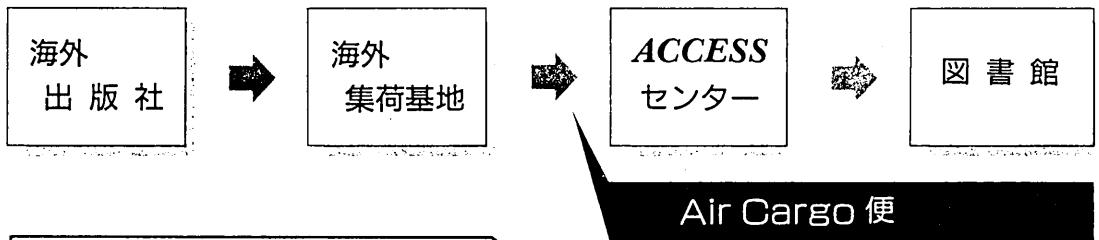
3. アクセスシステムの概要

紀伊國屋書店のパンフレットからこのアクセスシステムの概要を紹介すると次頁のようになる。

4. アクセスシステムの経済的側面からの評価

購読する雑誌のタイトルが決定し、価格見積も

おだ しのぶ：明治鍼灸大学附属図書館



ACCESS サービスの内容

1 海外からの集荷

お客様のご購読雑誌は、海外の出版社・集荷地から当社のACCESSセンターに全て集められます。エア・カーゴ便により輸送*しますので、従来船便で送られていたタイトルの入荷は飛躍的に早くなります。
*エア・カーゴ便による輸送は一部地域を除きます。

2 受入れ、到着時チェック

ACCESSセンターでは、雑誌到着後直ちに開封し、現品を確認次第、巻号・発行日等データをコンピュータに入力し、納品の準備をいたします。入力の際、同時にコンピュータ画面にて前回到着分までのデータをチェック出来ますので、部分欠号発見が早まり、出版社への迅速なクレームが可能となりました。

3 納品

入荷した雑誌は、コンピュータより打ち出された「納品書」(タイトルのアルファベット順)と再度照合の上、梱包し、毎週お届けします。「納品書」には、受入れに必要な書誌データの他、お客様の整理番号、予算コードの記載も可能ですので、お客様の受入れ作業はいたって簡単になります。

4 累積納品リスト

お客様のご購読タイトルすべてについての累積の入荷情報をリストにし、ご指定のサイクルで定期的に報告します。この「累積納品リスト」には、納品状況のほか、クレーム状況、遅延等の発行状況も明示してありますので、入荷状況の全容を容易にご確認いただけます。

5 定期的な入荷状況チェック

当社独自のコンピュータによる欠号監視プログラムは、出版社から未回答のクレーム一覧とともに、到着が遅れているものを自動的にリストアップします。到着時のチェックに加え、この欠号監視プログラムによる二重・三重のチェックにより、入荷状況チェックは万全です。

6 未着・欠号クレーム

到着時のチェックあるいは欠号監視プログラムのチェックにより発見された未着・欠号は直ちに出版社へのクレーム処理を行います。また、回答遅れの判明したクレームに対しても再度出版社へクレームします。クレームの都度、お客様へは「クレーム確認書」をお渡しいたします。

クレームの処理状況については、お客様は「累積納品リスト」にて確認するだけです。未着・欠号クレームは一切当社にお任せ下さい。

- 「納品書」「クレーム確認書」「累積納品リスト」には共通してタイトル、ISSN、刊行頻度、巻号、部数、お客様の予算コード、整理番号が記載されています。各書類の詳細については次頁をご参照下さい。



りをとった後は、外貨の換算率を考えながら円建てで割引交渉をする。書店、大学事務局、図書館の代表が話し合って支払い額を最終的に決定していくのであるが、本学図書館の雑誌購読タイトル数も年々増加しており、また円高の影響や雑誌そのものの値上がり、刊行回数の増加もあり個々の雑誌の従来の方法とアクセスシステム採用後の値段の比較はむずかしい。ただし、1991年12月のアクセス導入初年度の支払い金額に関しては手数料が高いという印象を持った。特に単価が安い雑誌ほど手数料が割高になるということは事実のようである。

5. 雑誌管理上の評価

(1) 受け入れ業務の合理化

日常業務としては、従来は発行のつど出版社より直接雑誌が郵送されてきたが、アクセスシステムになってからは一週間に一度小型ダンボール箱平均2箱くらいが宅配便で図書館内まで配達される。年末年始、夏期休暇など一週間以上続く休館がある場合は事前に連絡があり、打ち合わせに基づいて配達曜日を変えたり、一週間とばすことになる。

郵送の場合には大学の総合受付窓口に配達され、大学の事務局庶務課の受付簿記載のあと、毎日引き取りに行っていた。しかし、これは図書館の事務局の建物が離れていることもあってかなりの負担であった。また、事務局庶務課の雑誌受付業務も手数料がかかるようで、「雑誌については受付を省略したい」という申し出が以前になされたことがある。図書館としては、未着が生じた際の手がかりとして大学まで郵便物が配達されたかどうかを確かめるため受付簿を調べることがあり、万一の場合に備えて受付簿への記載は継続してもらっている。この点、アクセスシステムの84タイトルは図書館へ直接配達されるため、大学事務局も負担が少し軽くなったのではないと思われる。

雑誌受入業務の面では、毎日配達される郵便物の場合にはダンボール箱でまとめて配達される場合と比べると量的に少ないため、すぐに受け入れせずに片隅に積んでおき、受け入れを引き延ばし勝ちになっていた。しかし、決まった曜日に届く

ダンボール箱の場合は一度に一週間分の受け入れができ、その日のうちに開封して納品書と照合、受け入れの記帳や押印、所定の場所への配架と手際よく行えるようになった。このように仕事の計画が立てやすく、配達から配架までの業務が短時間でできるようになったことが大きなメリットである。

(2) 欠号、事故クレームの迅速化

納品書の他に欠号が生じればそのクレーム確認書も同封されてくる。最近ある雑誌の裏表紙が破損していたことがあったが、クレーム確認書にその旨記載され、後日完全なものが再度届けられた。ていねいな対応がなされている1つの例である。従来の方法では、郵送中に事故があった場合、たとえば「この郵便物は濡れたままで届き、本局で乾かしました」などと取り扱い郵便局のメッセージが貼付されていたものである。

外国雑誌の流通においては、何らかの事情で欠号が生じることは不可避である。今までは大学に届くまでに起こった郵便物の紛失はこちらでチェックしてクレーム処理をするしかなかった。したがって、欠号が生じないように常に神経を使ってきた。しかし、未着リストを作成し書店にクレームを出しても結果的には入手できないものがあったり、返金してもらったこともある。欠号なく完結することがあたりまえであっても、このように時としては思うようにはことが運ばない。このような欠号は何回かのクレーム処理をしても最終的には1年に1~2冊、金額にして4000~5000円分生じていた。これに関して、アクセス導入初年度の1992年分で見ると、現時点(1993年5月)で6冊の未着となっている。アクセスシステムの欠号チェックは納品書作成時に行われるので、この分は最終的には完結することを願って、いましばらく様子を見ることにしたい。

(3) ひとつの悩み

アクセスシステムを導入してまだ2年目、実際には1年4カ月しか経っていないので、その細部についてはまだ十分認識しているという実感が無いが、悩みがひとつある。

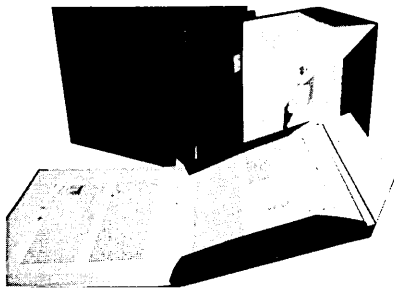
外国雑誌の中にはサービスとして完結後数カ月遅れて製本用のコンテンツやインデックスが別刷りで発行されることがしばしばある。たとえば、Pergamon Press発行のNeuroscienceは「Title section list of contents and author index」と「Subject index」の2種類の別刷りが各巻2カ月くらい遅れて最新号とともに送付されてきたのであるが、突然それがストップしていたらしく、製本中にそのことに気がついた。振り返ってみれば、アクセスシステム導入の時期に一致していたので、あわててクレームを出したが、一部善処されたもののまだ届いていないものもある。

このようなコンテンツやインデックスの製本用別刷りは今までの経験で出版されていることを覚えているだけで、欠号になっていても気づかないことが多いように思う。製本後にそれらが配送されるとたいへん残念で、もうすこし製本の時期をずらせばよかったと悔やまれるものである。別刷

りの未着までアクセスセンターにクレームを出していいものだろうか？

5. 結 び

雑誌に関わる業務で生じるトラブルの中でいちばん困ることは欠号の問題である。この点については、アクセスセンターではコンピューター管理をしており、欠号発生と同時にクレーム処理が行われる。万一図書館側が見落としていてももう一カ所アクセスセンターのようなチェックポイントがあると思うと少しは安心していただける。このことが従来の方法に比べてメリットであろう。今後、アクセスシステムがこのような利点を十分發揮して未着欠号が速やかに処理され、購読雑誌が完全な形で図書館に揃えられることを期待したいと思う。



書簡・葉書・素描・拓本・
水墨画・賞状などを中性紙
で完全に保護する、ガード
ブックをお奨めします。

美術品の保護を目的として抄造された中性紙(特種製紙(株)商品名マーメイド)を素材として考案された、額アチ感覚のたとう式ホルダーです。

11面収納でき、大きさはB5、A4、B4判のものがゆったりはまります。特大型、変型のものの御注文にも応じます。

構造は、収納物の裏面にマーメイド、表面には「薄く、強く、柔らかく」を特長とした半透明の版画・水彩画などの作品保護用I Lティッシュと、光線をささぎるよう開発されたポリセームPX0.2クリアーとの三段構えの額アチに劣らぬすぐれた構造で、しかも表紙を閉じれば、内蔵されたマグネットによりおのずと完全密着し、立て

ても小口がひらくことはありません。

表紙に用いる純麻独特の風合いと、落ち着いた色調(濃茶・濃紺)は、御希望によりお入れするタイトルの金文字の光と相俟って、全体にシックな仕上がりとなっています。

多くの大学図書館、資料館などで大変御好評を頂いております。

また当社では、軸装をはじめとして、和漢籍のウラ打ち修理、伝統の帙、たとう、古地図など、貴重な古書を保護するための、多種多様のBook Boxも製作しております。

御一報下さい。多少に拘らず係りのものがお伺い致します。

図書館に関する製本業務のすべて
洋装本・和漢書籍の修復および
貴重書保存のための保護ケースの製作

(株) 暁 工 房

〒552 大阪市港区弁天6丁目4-20
TEL (06) 571-3177 番
FAX (06) 571-3188 番